

2023年度北陸ユネスコスクール交流会
2023年12月2日(土)14:00~16:00
オンライン開催

ESD及びユネスコスクールを巡る最新の動向について

(特定非営利活動法人) 持続可能な開発のための教育推進会議 (ESD-J) 共同代表理事
日本ESD学会副会長
鈴木克徳

E-mail: katsunori0501@jcom.zaq.ne.jp

電話 : 090-4594-9694

ESDを巡る最近の動向

国際的動向：

●ユネスコによる1974年教育勧告の見直し

- 1974年にユネスコが行った教育政策に関する勧告の全面的な見直しが行われ、本年10～11月の第42回ユネスコ総会で採択された。
- 新勧告のタイトル：Recommendation on education for peace and human rights, international understanding, cooperation, fundamental freedoms, global citizenship and sustainable development
- 過去50年間の進展を踏まえ、2020年から3年間の検討を経た全面改訂
- 22ページからなる教育の在り方に関する包括的に基本文書であり、批判的思考能力等、12項目の身に着けたい力を示している。
- 地球市民教育とESDとが明確に位置づけられている。
- 気候変動教育の重要性について特記しており、各国政府に対して教育カリキュラムに組み込むよう要請している。

ESDを巡る最近の動向

国際的動向：

● 気候変動COP28における気候変動教育の議論

- 現在UAEドバイで開かれている気候変動COP28で、気候変動教育に関する多くのサイドイベント等が開かれる予定

● ESD for 2030 Net Global Conference

- 12月18-20日にかけて東京の国連大学で開催
- 参加は招待者のみ。オンライン配信がされる見通し
- 21日にオープンな国際シンポジウムが開催される予定

ESDを巡る最近の動向

その他の国際的な動向

- 国連教育の変革サミット（2022年9月16～19日、NY国連本部）
 - ・岸田総理のスピーチ（4分56秒）：ESDを全力で推進し、世界をリードすると宣言
<https://transformingeducationsummit.sdg4education2030.org/JapanNSC>
 - ・**グリーン教育パートナーシップ:気候変動教育を中核にすえたESD推進**
- 国際的イニシアチブ：ESD-Net 2030
目的：①知識の共有と相互学習、②アドボカシー、③コラボレーション、④監視と評価
アジア太平洋地域の準地域会合を開催。年末に日本で第1回世界会議を開催する可能性が示唆されている。
- 特に注目されている地球規模課題
 - 気候変動教育
 - 生物多様性教育

気候変動教育と生物多様性教育とに統合的に取り組むことが重要

ユネスコスクールをめぐる動向

●ユネスコスクール定期レビュー

- ☆現在第2回目の定期レビューを完了し、12月中に結果を連絡する予定。
その後、必要に応じ中期改善計画の作成作業に入る。

●ユネスコスクール加盟申請

- ☆引き続き、年2回のペースで審査
- ☆文部科学省からユネスコスクール支援大学に対し、申請に際して指導助言を行うよう改めて依頼
- ☆今後、統廃合に係るユネスコスクール、キャンディデート校について必要に応じ同様な国内審査を実施
 - ・ユネスコスクールとユネスコスクール：審査なし
 - ・ユネスコスクールとその他の学校：審査

ユネスコスクールをめぐる動向

●ユネスコスクール全国大会

☆2024年1月20日（土）東京の国立オリンピック記念青少年総合センター
国際交流棟レセプションホールでハイブリッド方式で開催。

☆12月初旬に申し込みを開始

☆ユネスコウィーク2024「共に想像する未来～ユネスコ活動によるアプローチ」の
一環として実施

☆関連イベント

1月19日（金）ユネスコ世界シンポジウム

1月21日（日）ユネスコ・ユースフォーラム

気候変動教育

- 世界的に重視され、国内でも様々な取組がなされている。

世界的なイニシアチブ

- ☆ユネスコと気候変動枠組条約事務局ウェビナーシリーズ

「社会変革のための気候変動教育」Road to COP28, Road to COP27

<https://unfccc.int/topics/education-youth/ace-hub/unesco-unfccc-webinar-series>

- ☆気候変動に係るエンパワーメントのための行動に関するグラスゴー作業プログラム

https://unfccc.int/sites/default/files/resource/cop26_auv_3b_Glasgow_WP.pdf

- ☆グリーン教育パートナーシップ<https://www.unesco.org/en/education-sustainable-development/greening-future>

国内のイニシアチブ

- ☆国内でも各種の資料や文献が整備されている。

全国地球温暖化防止活動推進センター <https://www.jccca.org>

ESD活動支援センター：ESD・気候変動教育の推進に関するコンセプトペーパー

<https://esdcenter.jp/wp-content/uploads/2023/03/846e01bb201c280e3474ed32d7ef90f4.pdf>

簡易版：<https://esdcenter.jp/wp-content/uploads/2023/03/289ff94befc20974553ae5a0817f8517.pdf>

「環境・持続社会」研究センター（JACSES）

新国民運動・官民連携協議会「脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動」

https://ondankataisaku.env.go.jp/cn_lifestyle/

グリーン教育パートナーシップ (Greening Education Partnership)

【グリーンなスクール】

○ビジョン

幼児期から成人の教育まで、教員養成機関や高等教育機関を含む全ての学校がグリーンスクール認定を確実に達成するよう努力する。

○ゴール

全ての国がグリーンスクール認定スキームを採用し、少なくとも50%のグリーン認定を受けた学校、カレッジ、及び大学が持続可能な方法で運営されている。

【グリーンング能力と準備】

○ビジョン

就労前及び現職の教員養成における気候教育の統合を通じて、教師と政策立案者を支援し、学校指導者と主要な教育関係者の能力を構築する。

○ゴール

全ての学校指導者と学校毎に少なくとも1人の教員が、気候教育を学校全体の教育及び学習に統合する方法について訓練を受けている。

【グリーンな学習】

○ビジョン

学校のカリキュラム、技術的及び職業的教育と訓練、職場のスキル開発、教材、教育学、評価に気候教育を統合する生涯学習アプローチを採用する。

○ゴール

就学前教育、初等教育、中等教育の学校カリキュラムに気候教育を含める国の数を、現在の約45%から少なくとも倍増する。

参加に興味がありますか。
コミットする方法は次のとおりです。

- ・各国は、4つの行動分野でグリーン教育パートナーシップに参加することが奨励されています。
- ・各国は、2030年までに少なくとも2つ、可能であれば4つの要素全てについて設定された目標を達成することにコミットするよう求められている。
- ・進捗状況は定期的にモニタリングされ、グローバルネットワーク「ESD-Net 2030」は、経験を共有し、優れた実践を紹介するためのプラットフォームを提供します。

【グリーンングなコミュニティ】

○ビジョン

気候教育を生涯学習、特にコミュニティ学習センターや学習都市を通じて統合することにより、コミュニティ全体を関与させる。

○ゴール

全ての国が、気候変動に取り組むためのコミュニティのレジリエンスを養成するスキル、態度、行動を発展させるために、大人が正式な教育制度外で利用できる学習機会について、少なくとも3つの異なる方法を報告することができる。

生物多様性教育

● 背景

- ・2022年12月、生物多様性保全に係る新たな世界枠組「昆明モンリオール世界枠組」採択。2030年に向けた生物多様性減少傾向の反転を目指す。
- ・新たな世界枠組を受け、2023年3月に我が国は「生物多様性国家戦略2023-2030」を閣議決定。
- ・新国家戦略において初めて教育者と学校教育、社会教育の重要性を明記。

● UNESCOの取組

- ・世代回復のための教育(Education for Generation Restoration) :

<https://www.mission4point7.org/events/launch-education-for-generation-restoration>

● 教育界に期待される役割：生物多様性の主流化への教育界からの貢献

- ・教育、特に小中学校教育における生物多様性教育の主流化

昆明モンリオール生物多様性世界枠組



昆明・モンリオール生物多様性枠組

2050年ビジョン
自然と共生する世界

2030年ミッション
自然を回復軌道に乗せるために生物多様性の損失を止め反転させるための緊急の行動をとる

2050年ゴール

ゴールA
保全

ゴールB
持続可能な利用

ゴールC
遺伝資源へのアクセスと利益配分
(ABS)

ゴールD
実施手段の確保

2030年ターゲット

(1) 生物多様性への脅威を減らす

- 1: 空間計画の設定
- 2: 自然再生
- 3: 30by30
- 4: 種・遺伝子の保全
- 5: 生物採取の適正化
- 6: 外来種対策
- 7: 汚染防止・削減
- 8: 気候変動対策

(2) 人々のニーズを満たす

- 9: 野生種の持続可能な利用
- 10: 農林漁業の持続的 management
- 11: 自然の調節機能の活用
- 12: 緑地親水空間の確保
- 13: 遺伝資源へのアクセスと利益配分(ABS)

(3) ツールと解決策

- 14: 生物多様性の主流化
- 15: ビジネスの影響評価・開示
- 16: 持続可能な消費
- 17: バイオセーフティー
- 18: 有害補助金の特定・見直し
- 19: 資金の動員
- 20: 能力構築、技術移転
- 21: 知識へのアクセス強化
- 22: 女性、若者及び先住民の参画確保
- 23: ジェンダー平等の確保

生物多様性国家戦略2023-2030の概要



1. 位置づけ

- ・新たな世界目標「昆明・モントリオール生物多様性枠組」に対応した戦略
- ・2030年のネイチャーポジティブ（自然再興）の実現を目指し、地球の持続可能性の土台であり人間の安全保障の根幹である生物多様性・自然資本を守り活用するための戦略

2. ポイント

- ・生物多様性損失と気候危機の「2つの危機」への統合的対応、ネイチャーポジティブ実現に向けた**社会の根本的変革**を強調
- ・**30by30目標**の達成等の取組により**健全な生態系**を確保し、自然の恵みを維持回復
- ・**自然資本を守り活かす社会経済活動**（自然や生態系への配慮や評価が組み込まれ、ネイチャーポジティブの駆動力となる取組）の推進

3. 構成・指標

- ・第1部（戦略）では、**2030年のネイチャーポジティブの実現**に向け、**5つの基本戦略**と、基本戦略ごとに**状態目標（あるべき姿）**（全15個）と**行動目標（なすべき行動）**（全25個）を設定
- ・第2部（行動計画）では、第1部で設定した25個の行動目標ごとに関係府省庁の**関連する具体的施策**（367施策）を整理
- ・各状態目標・行動目標の進捗を評価するための**指標群**を設定（昆明・モントリオール生物多様性枠組のヘッドライン指標にも対応する指標を含む）



関連施策からビジョンまで一貫通貫で整理

ネイチャーポジティブ（自然再興）とは

昆明・モンリオール生物多様性枠組
2050年ビジョン

自然と共生する世界

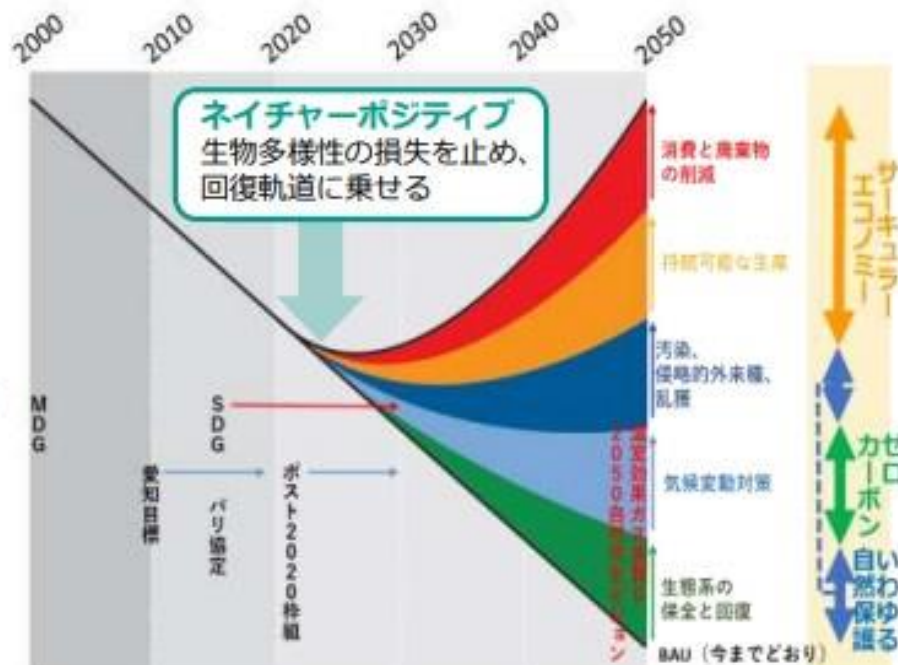
(a world of living in harmony with nature)

愛知目標から引き継いだ長期目標であり、我が国で培われた知恵と伝統に基づく考え方



2030年ミッション

**自然を回復軌道に乗せるために
生物多様性の損失を止め、
反転させるための緊急の行動をとる**



生物多様性の損失を減らし、回復させる行動の内訳

出典：地球規模生物多様性概況第5版(GBO 5) (2020)

**ネイチャーポジティブ
(自然再興)
の考え方**

ご清聴ありがとうございました。